第七巻

まおゆう

Archenemy and Hero 魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」

漫画原作 石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉鈴之介・ito8

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

Kadokawa Comics A
まおゆう 魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
第七巻
Comic Ishida Akira
Author Toono Mamare
漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉鈴之介・ito8

KCA264-10
角川書店

9784041206973
ISBN978-4-04-120697-3
C0979 ¥580E
定価：本体580円(税別) 発行：角川書店
1920979005808

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
第七巻

まおゆう 魔王勇者

Archenemy and Hero 魔王勇者

——「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」——

第七巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雹之承・toi8

Kadokawa Comics A

Kadokawa Comics A
まおゆう 魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
第七巻
Comic Ishida Akira
Author Tbuno Mamare
漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雹之承・toi8

KCA264-10
角川書店

ただいま

おかえり

まおゆう
魔王勇者

第二十三話

第二十三話 Archenemy and Hero 23rd chapter

戦うに時があり、和らぐに時がある

まおゆう
魔王勇者

第七巻

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

第二十三話 Archenemy and Hero 23rd chapter 001
戦うに時があり、和らぐに時がある
第二十四話 Archenemy and Hero 24th chapter 049
私は、この世界が好きなんだ
第二十五話 Archenemy and Hero 25th chapter 101
時が求めるから

人間と魔族との戦争に真の終わりをもたらすため、手を結んだ「魔王」と「勇者」。二人が人間界の「冬越し村」で活動を開始してから、2年以上の月日が流れた。この間、「紅の学士」を名乗る魔王は、「冬の国」をはじめとする「南部諸王国」に数々の知識や技術をもたらし、人々の生活が改善されたそれらの地域は着実に力をつけていった。

しかし、これを快く思わない「聖王国」と「中央教会」は、「第二次極光島奪還作戦」の実施や、紅の学士に対する異端告発などで南部諸王国を鎖に繋ぎとめようとする。魔王が冥府宮に篭るために魔界へ戻って不在のなか、彼女と良好な関係を築いていた冬の国の「冬寂王」は思い悩むが、これらをきっかけに中央からの自立を決意。同調する氷の国や鉄の国と「通商同盟」を締結し、独自の道を歩み始めたのだった。

この動きを知った中央教会は、三か国に対して破門を宣告。聖王国も南部諸王国を軍事力で抑えこもうと宣戦布告し、大軍をもって

迫った。南部各国がこれらへの対応に追われるなか、「白夜の国」の騎兵隊が鉄の国に侵攻を開始。さらに冬の国の南部には「蒼魔族」の部隊が出現し、冬寂王たちは窮地に陥る。

これらに対し、魔王の教え子だった「軍人子弟」は鉄の国の国境警備隊を率いて、白夜軍を撃退。中央からの軍に対して

は、「女騎士」の指揮で降雪まで開戦を引き伸ばす作戦をとり、本格的な軍事衝突を回避しようとする。また、単身で蒼魔族に対応しようとした勇者は、行方不明だった「女魔法使い」と再会し、彼女の転移魔法によって全魔族を魔界へと追いやることに成功。こうして、南部諸王国は中央との正面衝突を起こすことなく、危機を脱する。

そして勇者は、女魔法使いの言葉に従って魔王城へと向かう。その最奥に位置する「冥府宮」まで到達した彼が対面したのは、歴代の魔王の魂に汚染されてしまった魔王だった。もてる力すべてをもって戦いながら、必死に彼女の心に呼びかけ続ける勇者。その声は、魔王の意識に差す光となり、彼女は自らを取り戻したのだった——。

魔王

真の意味で魔族と人間の戦争を終わらせようとしている魔族の王。冥府宮で歴代魔王の魂に汚染されたが、勇者やメイド長の助力のもと帰還した。

メイド長

魔王が幼い頃から、彼女の世話をしている側近。歴代魔王の魂に汚染された魔王と戦い、重傷を負いながらも彼女を信じ続けた。

青年商人

人間界最大の経済団体「同盟」の幹部。開門都市の存在や火竜公女の来訪をきっかけに、魔族との通商を目指して動き始めた。

メイド姉

魔王不在時の代役を務めていたことで弾劾の場に出されるが、自身の経験からの言葉により、人々の意識の変革を促した。

中年商人

「同盟」に所属する商人。青年商人とは以前から付き合いがある。火竜公女が調達した塩を届けるために、開門都市を訪れた。

火竜公女

火竜族を束ねる火竜大公の娘。開門都市の代表として、塩の入手を青年商人に依頼。取引成立後も人間界にとどまっている。

辣腕会計

「同盟」に所属している男性。青年商人に付き従っている片腕的な存在で、下された指示を冷静かつ的確に実行する。

メイド妹

姉とともに魔王の館で働く元農奴の少女。食いしん坊が高じて始めた料理の道に邁進し始め、レパートリーを増やしている。

勇者

魔王とともに歩むことを決意した青年。彼女の夢を実現するため、人間界・魔界の各地を奔走している。歴代魔王の魂に汚染された魔王を救出した。

女騎士

かつて勇者と旅をしていた仲間のひとり。魔王や勇者のよき理解者であり協力者。魔王とは恋のライバル関係でもある。

女魔法使い

女騎士と同様、勇者と旅をしていた仲間のひとり。その魔法の腕前は勇者をも凌ぐ。魔王とも何らかの関係があるらしい。

冬寂王

冬の国の若き王。鉄の国や氷の国と通商同盟を結んで中央から独立し、三か国の盟主として、迫りくる脅威と対峙している。

鉄腕王

大陸でも有数の工業国として知られる鉄の国の王。王自身、歴戦の猛者でもある。冬寂王や氷雪の女王と三国同盟を締結した。

東の砦将

開門都市に駐留していた聖鍵遠征軍の部隊長。遠征軍撤退後は人間側の代表となり、魔族と協調して街の運営にあたっている。

氷雪の女王

吟遊詩人の故郷といわれる氷の国の女王。鉄の国や冬の国と三国同盟を締結。貴族子弟を通じて中央の情報を得ている。

商人子弟

魔王のもとで学んだ青年のひとり。冬の国で財務長を務めている。同盟の動きに対する対処の手腕は、青年商人をも唸らせた。

あぁ
あぐ
ウウウウウウウウ
はぁ
はぁ
はぁ…
これで
とりあえずは
大丈夫だ
よかった…
難しいところじゃ
なかったのも
運がよかったな
切り口も
綺麗なもの
だったし
関節とか…
でも
しばらくは
安静にして
おかないと
…ところでさ

その格好
どうにか
ならないか？
しかたない
だろう!?
ん？

ギャー!
キャー

目覚めたら
裸だったし
とっさに着れるものが
メイド長のエプロンしか
なかったのだ！
ゆさ
ゆさ
わかったから
揺らすな！

…あっちは
どうなっている？
みんなは
無事なのか？
地上も
いろいろ大変だよ
大騒ぎだ
そうか
知って
しまったんだな
人間界と魔界が…
表裏であることを
ああ
女魔法使いに
聞いた

何から話せば
いいかな…
…何からでも
すべてを聞こう

冬の国
官庁街
カッ
カッ
カッ
委員！
北の平原でも
雪が降った
ようですね
中央は
退きましたか？
ええ
中央の征伐軍は
短期決戦を
諦めた模様です
戦争は回避
されたのかや？
当面だけ
ですがね
これから
どうされます？
どうやら天の機嫌も
南部諸王国に
味方している
ようですし
巨大市場を
形成するなら
ここが好機でしょう

すでに
中央大陸中心部の
貨幣の流れは
自壊のプロセスに
入っています

貨幣の再鋳造も…
焼け石に水です

光の精霊を奉じる
中央聖光教会は

己の権威…
信用を過信して
いたようですね

ではここまでですね

これは戦であったのでしょう？

であるならば
収めるべき矛というものがありましょう

――天が下の

すべてのことに
季節があり

すべてのわざには
時がある

生まるるに時があり
死ぬるに時があり
泣くに時があり
笑うに時があり
悲しむに時があり
踊るに時があり
植えるに時があり
刈り取るに時があり
殺すに時があり
癒すに時があり
黙るに時があり
語るに時があり
愛するに時があり
憎むに時があり
戦うに時があり
和らぐに時がある

貴女は…
そう思うのですね
だから この国に
来たのではないのかや？
最後の決断をするために
商人殿は
商い人としては
純粋ですが
時に危うくも見えまする
時に その非情を
悔いておるようにも
商いの道には
情けは禁物です
流される情であるのならば
そうでもありましょうが
情けを武器にできるだけの器量をもちながら怯えるなどとはらしくもない
妾は助けぬぞ
我が君のようには

なかなか
心易くは
いきませんね

当たり前で
あろう
ここも戦場なのです
心して戦わねば

場は傾いたが
まだこれとは
限らぬな

わかりました
聖光教会の
救援に向かうと
しますか

…助けるの
ですか？

商人なりの
やり方でね

二大通貨体制…
拮抗体制は視野に
入っていました
対立があるからこそ
その間に入って
「利」を得ることができる

今いっきに
搾取するよりも
持続的な商売を
採用する…

そういう
判断ですよ

我が君を
裏返したような
殿方よな

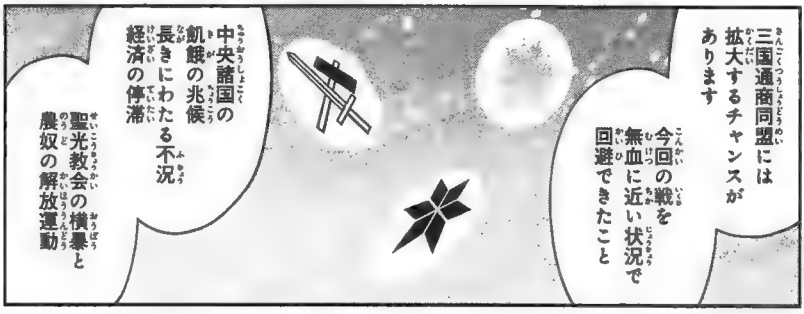
それでは
南部の英雄と
話を固めると
しましょう

冬の国
王宮

お久しぶりです
冬寂王様
そして
お初にお目に
かかります
鉄腕王様に
氷雪の女王様
よろしく
お願いする
青年商人殿
まずは第一の
話題です
私ども「同盟」は
三国同盟が国家備蓄
として保持している
馬鈴薯のすべてと
春までに生産される
追加分のすべてを
引き取りたい
という意向を
もっています
すべて…!?
とてつもない量に
なりますよ？
何に使う
つもりなのだ？

中央の諸国家に売ります
馬鈴薯は聖光教会によって異端食物の指定を受けているんだぞ!?
買うはずがなかろう
現在 中央は深刻な穀物不足です
飢えて死ぬよりは馬鈴薯を食べますよ
不足分はある程度麦を放出します
飢餓を起こすことが「同盟」の目的ではない
…我ら三国通商同盟に肩入れをしてくれる…と？
いえ
馬鈴薯を食べた人々がその味を理解し
それが悪魔の実などではないということを自らをもって体験してしまう…
その結果 いくつかの国々が三国通商同盟の方に傾く——
そんなことが仮にあったとしても
別に それは「同盟」が三国通商同盟に好意をもっているという話ではありません

「同盟」の目的はこの場合 どこにあるのかね？
そうですね
陛下たちは今意識してか否か歴史の岐路に立っておられる


三国通商同盟には拡大するチャンスがあります
今回の戦を無血に近い状況で回避できたこと
中央諸国の飢餓の兆候
長きにわたる不況
経済の停滞
聖光教会の横暴と農奴の解放運動

…すでにいくつかの国から打診があるのではないですか？
自国だけは関税を緩和してほしいであるとか
秘密軍事同盟を結びたいであるとかといった件です
それは答えかねる
ゴホン…

今まで この大陸では
「聖王国＝聖光教会」の
一極支配がまかり通ってきた

反抗勢力は
武力殲滅する
ことができた

三国通商同盟は
そういった状況に
発生した

聖王国以外の武力と
聖光教会以外の信仰権威

これは歴史上
類を見ない
ことです

規模は小さいですが
そこに まったく新しい
チャンスがある

…そのチャンスとは
勢力圏であり
経済圏

私たち商人の
言葉で言えば
「市場」です

たったひとつしか
国がない状態では
商売の幅が
狭くなってしまう

もし まったく
異なった二つの
勢力があれば

どれほどに
商売の幅が広がる
でしょう？

それが
本題なのか

…そこまでの話はわかった

それに対する対価は どのように支払えばよいのだ？

まず第一に馬鈴薯についてですが

これは〇.七倍の重さの挽いた小麦

もしくは一.五五倍の重さの大麦との交換でいかがでしょう？

妥当…ですね

パチ…パチ…

次に経済圏設立提案ですが

こちらは無料です

この商売のやり方はある方より教わったものなのですが

この場合「概念」といいますか「考え」を売っているのです

儲けは度外視してもですね

私ども「同盟」は新しく成立したその勢力内でも商売をします

ですからこそ無料ということでも利益は上がる

そうですね…差し当たっては

商館と銀行業開始の許可をいただければ…

ふむ

銀行施設か…

湖畔修道会の
修道院を各国に
作りたいのだが
我らには
金がないのだ

投資や援助の
相談は受けて
くれるかな？
聖光教会に
対抗するためには
重要な考えかと
しかし
修道会に
そこまでの投資価値が
あるかどうか…

それらの
修道院では
天然痘の
予防治療を行う

なっ!?
事実ですか？

…あの方
ですか？
…あの人の
一族だな

わかりました
我が「同盟」は
初年度において
金貨二〇〇万枚相当の
援助を用意しましょう
しかし
このような
機密を
私のような
得体のしれない商人に
話してしまっても
よかったのですか？

紅の学士殿を覚えているか？
はい
機会は多くはありませんが
あの美しい方は外面だけでなく
気高く聡明な魂をもっていますね
ああ
どちらの紅の学士もだ…
あの人は出会った者の心に…
種を蒔いているような気がする
商人殿のなかにあの人が残した種の芽生えを感じたのだ
…わかるような気がします
ですが私も商人
商売のことでは引きませんよ？
結構だ
それでは
今日の本題の二点目にして最大の交渉です

私たち「同盟」は
魔族との交易を
行うために
魔族との
早期停戦合意を
希望しています
相手は魔族
なのだぞ!?
取引など
できるものか!!
できます
貴方がただけが
命を懸けている
のではない
私が私で
あるから
商人であるから
できると
言っているのです
…命を懸けて
…お歴々

私は商人の家の倅です
青年商人さんの気持ちはわかるような気がするんですよ
『戦争中の隣の国だけど実はすごい特産品があるんだ
そんな所へ行って交易がしてみたい』
それだけのことなんですよ
それに中央との揉め事や軋轢を抱えたまま対魔族戦線や警戒網を維持することは無理な話じゃないですか？
今の事実上のこの戦争休止状態をなんとか延長することに何の問題もないと考えます
魔族との和平が実現されれば
三か国同盟は防衛予算を圧縮し
同盟からの港使用料や関連税で財政的に潤うことにもなります
ホウ…
…やりますね
情と利の両面から説得を持ちかけてますよ

やはり
この件については
重大すぎるために
すぐさま返答する
わけにはいかない
そうですか…
しかし
早急に
魔界に対する調査団を
派遣しようかと思う
私も指摘されて
思い知ったのだ
我らは魔界のことを
知らなすぎる
二回も聖鍵遠征軍を送り
合計で一〇万人に迫る
人間が入り込んだのだ
その風物や産業
あるいは風景くらいは
聞こえてきても
いいのではないか？
それなのに
なぜか我らが
知っているのは
悪夢じみた
おとぎ話にも思える
戦闘の様子ばかり…
何かが
おかしいような
気がしてならぬ

もしかしたら
二つの世界は意外に
近いのではないか
そのような予感も
私にはするのだ…

開門都市
地下
ピィ
ピィ
ピィ
ピィ
ピィ
ご主人様ぁ
こんな暗くてジメジメした場所に何の用があるんです？
ピィ
明星雲雀
カッ
ピ…？

不可視化された
高密度術式を確認
侵入を防ぐ
多重層結界
そんなの
ぶっ壊しちまえば
いいんだろ!?
ピィ!
ゴオオオ
ピピピ…
ピピ…
ご主人様
これは…!?

高密度力場柱形成術式――……
古代の…
ううん
神代の魔法技術…

私は…
出来の悪い悪夢
偽物として
生まれた
でも…
勇者…
いいよ
勇者なら…いい
貴方が本物で
…よかった
私は私が
望みさえすれば
偽物じゃなくて
冗長系になれる
この悪夢を
眠らせて
寂しくても
正しい夢に戻す
…そう作られた
からじゃなくて
…そう生まれた
からじゃなくて
触れて
もらったから

私は…選ぶ
勇者の隣を
……歩く
ずっと…
カツ
カツ
カツ
カツ
カツ

我が同胞よ！
我が臣民よ！
長きにわたる
憂悶の日々に
耐えてくれたことを
嬉しく思う

…私は帰ってきた
この魔界に！
魔王！
魔王!!
魔界に
栄光あれ！
なんだよ
人気ないって
言ってなかったか？
歴代のなかでは
そうなんですよ

私が雌伏していた二年の間に何があったかは知っている
まずは人間が征服していた我らが聖地のひとつ開門都市を取り戻すことができ喜ばしい
かの都市は今後我が直轄領としての庇護を与える
私が姿を見せぬ間魔王に反旗を翻し
また私が定めた法を逸脱した者に関しては
我が忠実な剣にして将黒騎士がその斬魔の剣にて粛清を与えた！
へ？
お？
おお
勇者様ここでスゴイところを！
ヒソヒソ
ガオーッと！

チュドーン
ゴオオオオ
オオオオ

こ…
これが我が将の実力だ！
おおおおおお
スゲー
黒騎士すげー
オオオオオオ
やっべー
なんかやりすぎた…
まぁ！様
ナイスアドバンスフロー…す!!

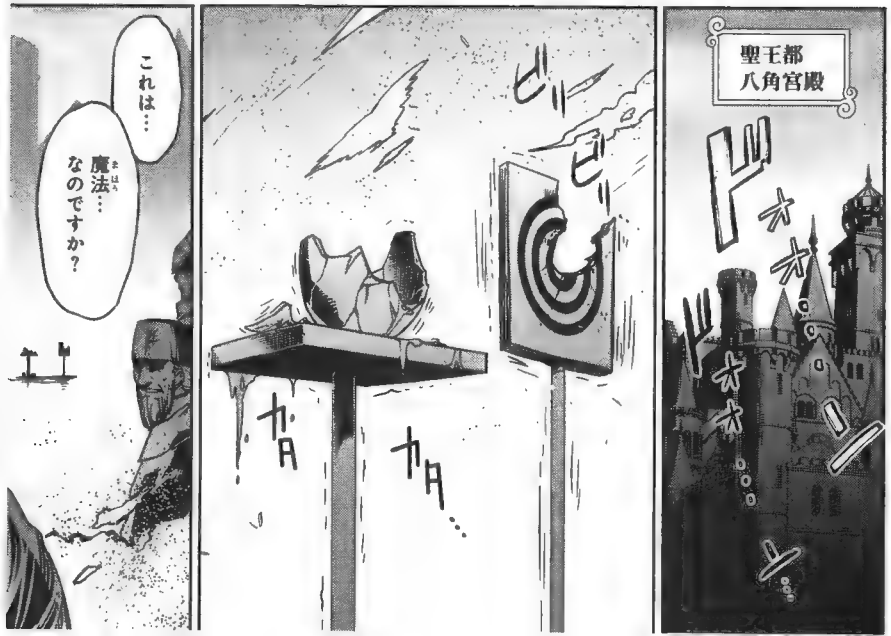
本日は我から皆に通達がある
人間と接触しはや二〇年
彼らのもつ姿も力もその性格も
すでに我らのよく知るところとなった
我らは今まさに歴史の岐路に立っておる！

第四十三代魔王
「紅玉の瞳」の
名において
ここに告げる！
私は！
オオオ

ここに
大部族会議
「忽鄰塔」の召集を
告げるものである！

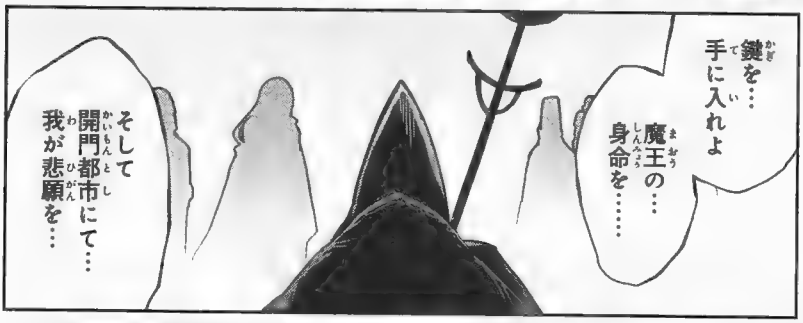
魔王～
魔王!!
魔王!!!
とうとう
この日が来た！
人間との
全面戦争だぁ！
今度こそ我らの
大勝利だぁ！
え？
ちが
そうではなくて…
魔王
魔王!!
人間を滅ぼせ!
…ええーい！
すべては忽郷塔（クリルタイ）において族長（ぞくちょう）による
決定（けってい）が下（くだ）される！

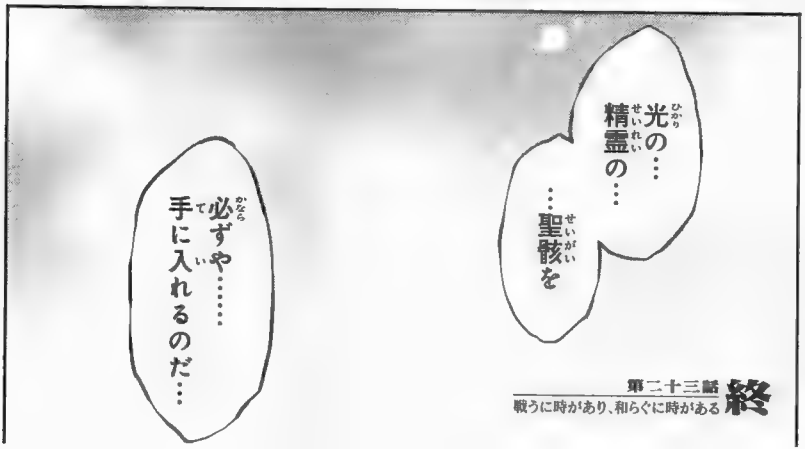
魔界の隅々にまで伝えよ！
魔王が召集をしていると！


聖王都
八角宮殿
ドオオオオ
これは…
魔法…なのですか？

魔法ではない
――「マスケット」
魔力がない者でも中級炎弾を生み出す機械だ
ブラックパウダーの爆発を推進力に変えて敵を撃つ
王弟元帥
その最大の特徴は訓練だ
弓兵を育てるには一年以上の教練が必要
中級炎弾を使う魔道士ともなれば五年以上がかかる
しかしこのマスケットは違う
これさえあれば奴隷であっても二週間の訓練で扱えるようになる
!!
こんなものがどこで…
これを作っていた鉄の国の職人が亡命してきたのだ
指示して作らせていたのはあの異端の魔女だという…

これの生産に成功すれば戦が変わる
戦に用いることができる兵が一〇倍にもなるのだ！
秘密裏にマスケットの量産体制を整えよ！
…そちらとの約定は先のとおりでよいのだな？
ええ
我らの悲願が達成された暁には
南部三か国の領土を与えよう
密約が守られる限り
我ら蒼魔族は「教会の敵」をも演じましょう
貴方たちが君臨し続けるためにもね
しゃるるる…
しゃるるる…
声が…聞こえる…
呼ぶ声が…
猊下！



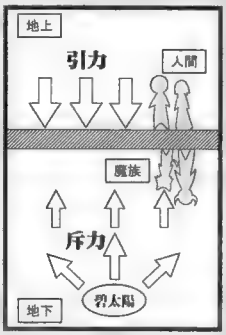


第二十三話
戦うに時があり、和らぐに時がある
終

第二十二回

人間にとっての「世界」

**人間にとっての「世界」は
認識できる範囲の拡大や
科学によって解明されたことで
少しずつ真実に近づいてきた。**



魔界は異世界などではなく、人間が住む地上の内側に存在する世界だった。

認識可能な範囲とともに広がった人間の「世界」

人間は、自分たちが住んでいるこの世界について、古くからさまざまな姿を想像してきた。例えば、北欧神話では世界はユグドラシルと呼ばれる大きな木の上にあるとされていたし、古代インドでは地上を亀や象といった動物が支えていると考えられていた。

科学文明が未発達だった時代、人々が実際に目にできる範囲は非常に狭かった。自分たちが住む地域以外の情報といえば、時折やって来る余所者の話くらい。自分たちが見聞きして認識できる範囲の外側については、想像で補うしかなかったのだ。

文明が芽生えた初期の時代ではなおさらで、例えば紀元前19～17世紀頃のバビロニアで考えられていた世界は、自分たちが住む場所から遠くに見える山までの範囲しかない。まさに魔王が勇者に語っていた「あの丘の向こうには何があるのか」というような状況だったといえる。

科学によって常識が覆されたことも

しかし、文明が発達して人間の行動範囲が広がると、異なる文明同士の接触が起きる。これにともなって情報も均一化されていき、世界は徐々に人々の前に真の姿をさらし始めた。

とくに16世紀半ばに発表されたコペルニクスの「地動説」は、科学者たちに大きな影響を及ぼした。地動説は、発表された当時は不完全な箇所もあったものの、のちにヨハネス・ケプラーやアイザック・ニュートンといった科学者たちによって、地動説はより完全なものとなっていく。そして、ついには古代ギリシア時代より長らく人々に信じられてきた「天動説」を覆した。

地動説が証明されたことは、「常識が真実ではないかもしれない」という可能性を人々に示した。とくに科学の分野では、「常識を疑う」という姿勢を促すひとつのきっかけになったといえる。

本作では、異世界だと思われていた魔界が、実は人間界と表裏の関係だという事実が判明した。すでに開門都市では魔族と人間が共存しており、魔族との通商を模索する青年商人のような存在も現われた。これらの動きが、世界の今後にどのような変革をもたらすのか、注目したい。

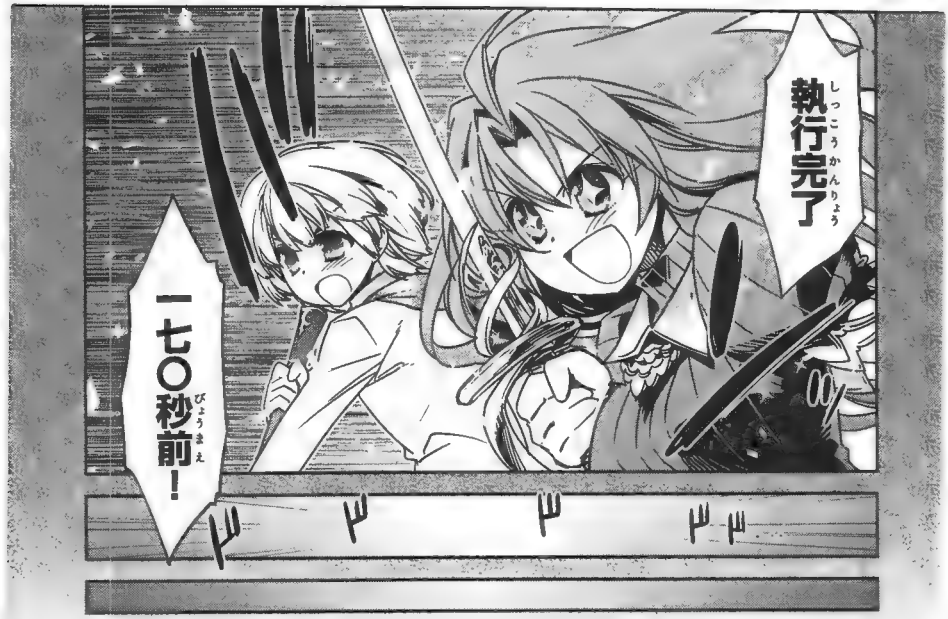
青年商人が魔族と通商を始めようとしていることも、世界が変わりつつある証拠といえる。

帰還

学士様が村に戻られた…!?
本当だなや？
ざわ
ああ
メイドの娘っ子らも白の剣士様もご一緒だったべ
よかった…
本当によかっただよ…
こんな嬉しい時に泣く馬鹿がいるかい
うう
がくしさまにぼくのつくったばれいしょあげるんだ
メイドのおねーちゃんにも
おお
それがええ
俺のとこの腸詰肉もだ
見ろ
学士様のお屋敷に灯が
おお
まるで春がきたようじゃのう…

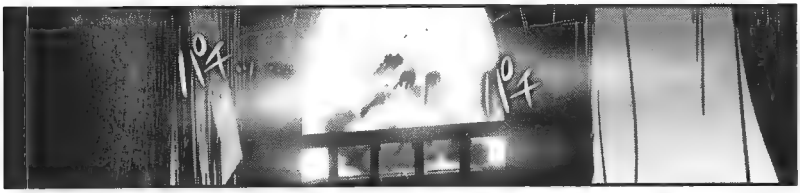
まおゆう
魔王勇者
第二十四話

私たち！
ぼくたち！
ぱんっ
相手が悪だか
どうかも確認
せずに
ノリと勢いで
征伐執行！
わがままいっぱい
甘えたい盛りの
お年ごろ！
その名も
『ごきげん
殺人事件』！
ヒャー
ヒャー
ヒャー



第二十四話 Archenemy and Hero 24th chapter

私は、この世界が好きなんだ



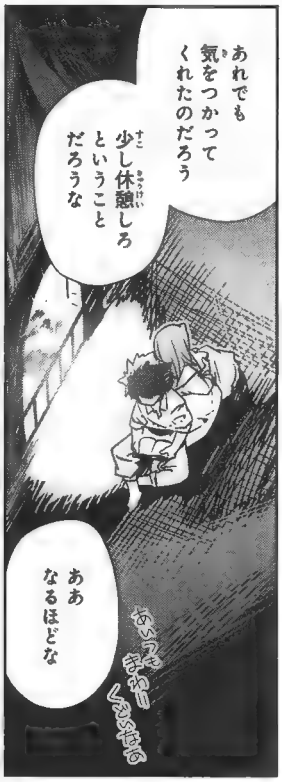
パキ
ゴォォォォォ

胃の中までカブ汁で満たすだと…？
なんて猟奇的で残虐な発想なんだ
作者は正気か!?
…いやぁどうかな
そのへんちょっとおやういを…
パラ
ごきげん殺人事件 1
ふぅーむ

意味はまったくわからないが面白いな
だろ
勇者にこんな趣味があるとは思わなかったぞ
俺も普段は本なんて読まないよ
これは知り合いが書いてるから読んでたんだ
誰だ？
女魔法使いだよ
!?
…なんと彼女にそのような趣味が？
そうなんだよ…
あ
そういえば口止めされてたんだった！
これは秘密だぞ？
うむ

でも
メイド長も
神経質だよな

では
お二方
不在の間の
仕事の具合などを
チェックして
まいりますので
しばらくは
おとなしくして
いてください
よろしい
ですね？


あれでも
気をつかって
くれたのだろう
少し休憩しろ
ということ
だろうな
ああ
なるほどな
あいつもまわりくどいな

こうして
勇者と背中を
くっつけあって
本を
読んでいるなんて
不思議な感じだ

数年前には
想像もしてなかったよ
魔王も一緒に
読書なんてさ

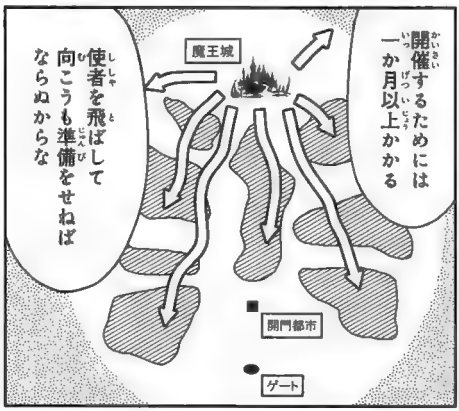
背中…
暖かいな
うん

それにしてもさ
その！…
くりるたい？
だっけ？

あんな盛大に
開催宣言したのに
帰って来ちまって
よかったのか？

忽都塔だ
魔族の族長が集まり
重要事項を決定する
大会議だな

開催するためには
一か月以上かかる
使者を飛ばして
向こうも準備をせねば
ならぬからな



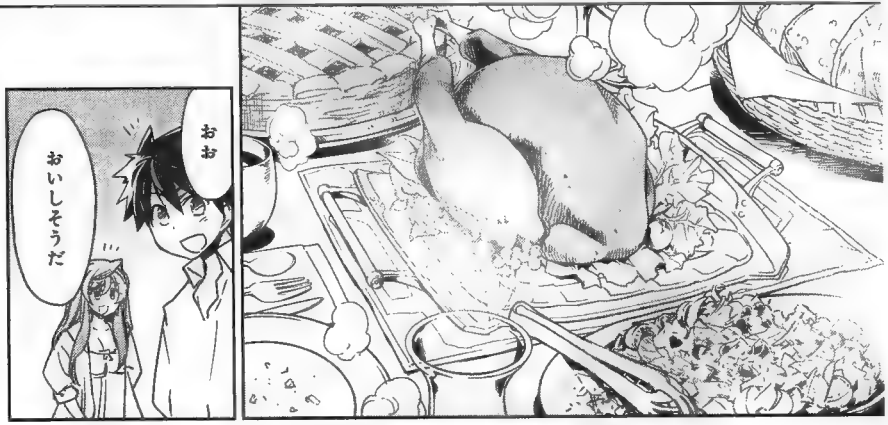
忽都塔は本当に
大きな集まりで
そうそう開催される
ものではない

ひとりの魔王の
治世のうちに二回も
開かれれば多いほうだ
なかには
一度も開かなかった
魔王もいる

会議は族長同士で行われるが
族長だけが集まるわけではない
氏族の主だった顔ぶれが集まって交流するのだ
市が開かれ交易も行われる
腕試しの決闘がそこここで開かれるし
なかには恋に落ちる若者同士もいる
多くの宴も催されるぞ
時には宴だけでひと月にわたることもあるという
普段交流をもたない氏族同士が触れ合う機会——
それも忽郷塔の大きな役割なのだ

今回の会議はやっぱり…
ああ 人間族との関係の見直しが議題だな
……
大丈夫 なんとかなるさ
そのためにもしばらくは この屋敷と地上界で資料集めや交渉材料の準備をしなくてはな
トーントーン…
まおー様 お食事の用意ができました
申し訳ありませんでした 当主様
もうよいと言っているではないか
何度目だ？
しかし 当主様のお姿であのようなことをしてしまって 当主様の今後のご活動にも影響が…

かと言って
殺されていたら
それこそ問題だ
「紅の学士」は
幽霊になってしまう
それに…
なによりメイド姉が
無事でよかった
つらい役目を
負わせてしまったな
…いえっ
いえ
そんな…
さあ
そのくらいに
しておきなさい
そうだよ！
せっかくのごちそうが
さめちゃうよ
…はい


おお
おいしそうだ

屋敷を空けてたのによく食料があったな
村長と村の方たちが先程から何人もいらっしゃってご帰還のお祝いだと届けてくれたんです
ありがたいな

みんな 席につけ
今日はみんなで一緒に食べよう
習慣にするわけじゃない
今日だけだメイド長
仕方ないですね
主人の希望をかなえるのもメイドの仕事ですからね
では…
いただきまーす

ところで
まおー様
いかがでした？
？
お二人の
時間ですよ
ああ
楽しかったぞ
どきどき
わくわくだ
おお
二巻で
まさか自分たちが
逮捕されるとは…
…はい？
何のことです？
「ごきげん
殺人事件」だ
勇者と二人で
読んでいたんだ
面白かったぞ
メイド長も
読むかって
ずっと？
うん
ずっと
勇者様ー？
ん
当主様が
今晩の湯浴みで
背を流したいそうです
え!?
いっしょのお風呂なので
いいなあ～
私たちは
いいの

そんな突然…
こういうのはムードとかタイミングが
お二方とも何を聞き分けのない……
わかりました
では
勇者様の背中は私がお流しします
ぐ
ぽん

何を想像している勇者!?
そのようなこと許せるわけがないではないか!
ガク
ガク
そうだぞ!
断じて認められん!!
ばんっ
帰ってきたと聞いて訪ねてみれば
油断も隙もないな

お席の準備いたしますね
あ
ありがと
コレ差しんだ
…話はだいたいきいている
大変だったみたいだな
…ん
そっちもね
まぁとにかく
おかえりなさい二人とも！

じゃーん！
こいつが
お土産だ!!
まず妹には
緑柱石の髪飾りと
「せいろ」だ
ヤブこ
せいろー？
おっきー
これは
なんです？
わあ…
これは鍋の上に
乗っけるんだ
下でお湯を沸かして
湯気で中の食べ物を
温めるんだよ
「蒸す」って
いうんだけど
わかるか？
うわああ！
おもしろーい！

で
メイド姉には
こっちだ

あいつが
選んだのは
この櫛

きれいです
宝石みたい…

こっちは
俺からだ
絹の綳子織だよ

ほぁ

服にしようと
思ったんだけど
女の子の服とか
サイズとか
わからないし

やっぱ手抜き
だった？

いえ
いいんです
こんなきれいな
布地は見たことが
ありません

うん
すごーい！

お姫さまの
ドレスみたい

学士が
姉なら仕立ても
できるって
言ってたから
はい
ありがとう
ございます
当主様は
どちらに？
お礼を
言わなくちゃ
あー
女騎士と
どっか行ったな
女友達同士
積もる話も
あるんだろ
すまないな
騒がしい夕食で
いや
いいんだ
楽しかった
こういう
楽しい食事は
気持ちが和むよ

——今晩のうちに
話しておきたい
ことがあって

…魔王が
いない間に
勇者に
剣を捧げた

剣を捧げる
という行為は
騎士にとって
重要な——
誓約の儀式
なんだ

騎士は
主人を持って
——剣を捧げた
主君を持って初めて
一人前になる
剣を捧げるというのは
騎士にとって
主君にすべてを
委ねるということで
主君のために働き
戦場では武勲を立てる
生き方の規範なんだ

主君のことを思い
主君のために尽くす
…主君のものになる
ということなんだ
その誓いを
勇者に捧げた

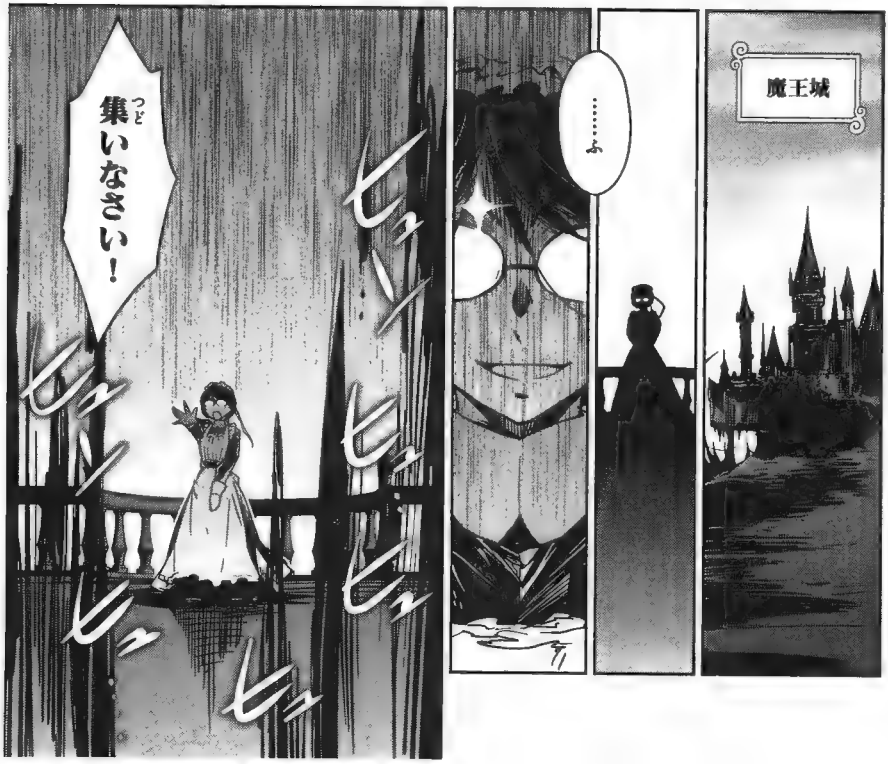
魔王が
いない間に
許可も得ずに
内緒で
卑怯だと思う
それは
わかっている
それに
勇者に対しても
もしかしたら
無理強いを
したんじゃないか
とも…思っている
だからといって
取り消せない
勇者に剣を
捧げたいというのは
私の魂の願いなんだ
——でも
これは魔王に
内緒にすべきでは
ないと思った
魔王が勇者の持ち主
だからっていうのも
あるけど
友達だって
言ってくれた
から

……
騎士の誓いが
破れぬものであるように
私の
所有契約だって
不破の約束
ずっと昔から
勇者が会いに
来てくれるのを
待っていたのだ
うん
そう…
だよね
だが
仕方あるまい
えっ…？
私は「仕方ない」
という言葉が
嫌いではないのだ
言い訳に使うことが
多いことも
承知している
だが
時に その言葉は
飲むに飲めない妥協を
飲み込んでも
前へと進む言葉に
なってきた
辛く厳しい現実を
受け入れてでも
立ち上がる
勇気に満ちた
言葉だからだ

そもそも
歴代魔王では
ハーレムを
もたない者の方が
少ないくらいだ
勇者のことは
知らないが
それくらいの
規模は予想して
しかるべきだった
世界を救う
勇者だものな
でも
そんな
勇者の隣に
誰がはべろうが
そのなかでも
女騎士が
いちばん
『仕方ない』
他の誰で
あるよりも
私は我慢が
できると思う
魔王…
聞かせて
女騎士
はっきりと
わかった

私は
勇者が好きだ
所有者として
ひとりの男として
私は
勇者が好きだ
剣の主として
ひとりの男として
ふ…
ふふ…
仕方ない…な
人の気持ちは
仕方ないよな

だからといって
譲るつもりも
負けるつもりも
ないぞ？
やる気か？
その言葉
そっくり返そう
ギャギャギャ


魔王城
……ふ
集いなさい！

今週はこの東館の清掃を集中的に行います
リネンのセット
生花の準備
庭の手入れを行いなさい
あわせて食糧倉庫の全品入れ替えも行います
手抜きはしないこと
は？
ゴキブリ？
許可します
殺りなさい
ざわ…
ざわ…
ざわ…
二れい？
それくらいどうにかなさい!!

いいですね
当魔王城のメイド部隊の名にかけて
遺漏は許しませんよ！
ビッ
ビッ
ビッ

魔界
開門都市
中央庁舎
トン
大将
お客人です
おお
入って
もらってくれ
パラ
パラ
やあ
聞いてはいましたが
本当だったんですな
人間が魔界の街の
仕切りをやってる
というのは…

そういう
あんたは
まさか…
ガヤ…
ええ
人間界から
やって来ました
人間界からの
訪問客なんて
いつ以来だろうな
ようこそ
開門都市へ！
俺が
この都市の
自治政府執行委員
…なんてものを
仰せつかっている
砦将というものだ
まずは
これを
御覧ください
!!
火竜公女
から…？
ってことは…！
ええ
塩の輸入を
依頼されて
運んできたんです

荷物は荷馬車に十八台
確認してみてくれませんか？
よし
副官見てきてくれ
火竜公女は？
手紙にも書いてあると思いますがまだあっちにいますよ
そうずいぶん気合の入ったお嬢さんでしたよ
彼女は「同盟」という
私の所属している商人ギルドに接触して…
私の上司に渡りをつけたんです
その手配で今回の荷運びをしたってわけなんですよ
なるほど…
塩の代金とかはどうなってるんだ？

私はすでに
同盟から手当を
受けているんです

同盟の方は
お嬢さんと協力して
もっと大きな仕事に
手をつけるっていう
話でしてね

今回のキャラバンは
当面の塩不足を
どうにかするための
手始めらしく

こういった塩を
もっと潤沢に
輸出入するための
仕事だそうですよ

そちらの儲けから
たっぷり手当を
いただいているから
代金などは
いただく必要は
ないんですよ

そういうことなら
お言葉に甘えると
するか

その…

コキコキ

ははは
お疲れのようだな

せっかくの
人間界からの
客人だ

あんたのキャラバン
みんなで軽い宴席でも
どうだい？

そいつはいい
みんな
喜びますよ

いろいろ
聞きたい話も
ありますしね

魔族の職人や
傭兵というのは
どうすれば雇える
のでしょうかね？

ゲート跡に
開いた大穴
あそこに安全な街道を
造るのは なかなかに
やりがいのありそうな
仕事だと思ってね

すさまじい
激変だった
ようだな
ええ
レポートだけ
見ても
大騒ぎですね

異端審問から
はじまり
天然痘までも

青年商人の
企てた策は
まさに「買い煽り」だ

資産のすべてを
投げうつ戦略には
私でさえ背筋が凍る

さらには原始的な
「先物」さえ
創造しているんだ

青年商人は
あの位置から
聖王都最大の
スポンサーに
なることもできた

しかし彼は
二大経済圏の成立
という賭けに
打って出た

その方が
明日があると
信じて

彼の判断は
理論としては
正しい

経済の
発展のためには
多数の国家や
多数の貨幣
それらの衝突や
摩擦が必要だ

いずれやってくる
魔族との交渉の
ためにも

それらの経験値は
必要不可欠

ゲートは
壊れてしまったの
ですからね
ああ
そもそも
人間界と魔界は
「異世界」などでは
なかったのだ
ゲートの
破壊がなくても
いずれ誰かが
気がついて
二つの世界の垣根は
ぐっと引き下げられて
いただろう
ゲートが
なくなったことで
地上と地下は
いっそうの接近を
迎えた
平和的な交流か
より大きな摩擦…
戦争になるかは
まだ
わからないが…
そして
なにより…
彼女だ
見たか？
メイド長
…はい

すごいじゃないか！
素晴らしいじゃないか！
これは…
これだけは私が残していったものじゃない
生命
財産
自由
その三つを自然権として謳っている
これは明らかに人間性の自立や他者への友愛を含んだ
啓蒙主義的な発想だ
この言葉は
この世界に生きている彼女個人が
傷と痛みと精神の血の中から必死でもがき
探りだした自由主義の萌芽だ
私が教えたものじゃない

いや
教えたとしても
「知識」では
超えられない壁が
存在するはずだ
教えることで
どうにかなるもの
じゃない
彼女は その壁を
魂の輝きで
乗り越えたんだ

この報告の
言葉には
書いてあるよ
「二度と虫には
ならない」
「それが
どんなに辛く
厳しくても」と

私は
彼女に…
…なにか
何ほどのことが
できたかと……
ダメですね
…これは言葉には
なりません
彼女だけ
じゃない
見てみろ

紙を利用した
記録の有用性の
再発見
試験制度や
報酬制度を含んだ
閣僚主義の成立
関税による
ブロック経済化に
原始的な本位制度
…それにしても
馬鈴薯本位とは
なかなか上手く
切り抜けた
ようじゃないか
商人子弟は

軍事にしても
そうだ
野戦陣地や斜線陣形は
この時代の発想にはない
戦術だろうな

貴族子弟は中央社会で
ロビイストを務めて
いるようだ
粘り強くも
したたかに戦時交渉を
続けている

どれもこれも
確かに教えたのは
私だけど
すべてに
工夫の跡がある
この世界に
生きる人間が
この世界なりの
やり方で
自分たちの
知恵を凝らした
創意工夫の
跡が見える

魔族だって
負けていない
私が行った
施政を大きく
広げていた
たくさんの風車が
回っていた
為替の機構も
軌道に乗った
そうだ
郵便の話を
聞いた時には
私だって
びっくりした
公共工事と
病院の設立もすごい
獣牙族と鬼呼族は
互いの利益を
保護するために
共通の憲法に
署名をするそうだ
ぱたたっ
図書館の
外の世界——

こんなに
騒がしくて
こんなに
無秩序な世界が
なんて愛おしく
思えるんだろう

まおー様…
これは…違う
大丈夫
涙だけど
おそらく泣いている
わけじゃない
たぶん 私は
ちょっとだけ
誇らしいんだ
私の手柄じゃ
ないけれど

人間はすごいな
世界はすごい…
私は
——この世界が好きなんだ
私も そう思っています
出会ってよかったと

うん
よかった
あの図書館を
出たのは
間違いじゃ
なかった
キン
ガッ

今日は
気合入ってる
じゃないか！
まだまだぁ！
『光壁三連』！

ヒュッ
ヒュッ
ヒュッ
ヒュッ
ヒュッ
ヒュッ
ピキ…
俺の勝ち～
♪
く…

まあ女騎士は防御が固いけど
大きな技ほど光壁で止めようとするからな
そこ ちょっと注意な
うーん…
勇者
うん？

さっき使ってた剣がフワってブレて霞んで消えて
剣の気配も消えてこちらの防御魔法をすり抜けてきた技なんだけど
ああ勇者剣技その四十八なー

あれを覚えたい教えてくれないか？
無理なんじゃないか？
勇者の剣技だし…
やってみなきゃわからないだろう？
…それもそうか

こんなふうに剣を構えるだろう？
フム
フム…
で
右手の薬指で重心をとるみたいに力を抜いて
!?
手のひらで柄がぷらぷらする感じだ
そしたら剣の刀身から魔素を吸い込むような気持ちで
キューッと周辺の空間を掴んで引っ張るわけよ
ほー…
!?
そんで
シュパーン
と
シュパーン
消えた!?
どうぜ？
……
おい
どういう理屈だ!?
理屈なんてしらないよ
とにかくそういう気分の技なんだ
まったくわかりんぜ!?
気分で技を作るなー
んなコト言われても…
ギャーギャー
わー

冷えてきたな
修道院に戻ろう
温かいものでも
出すよ
そうすっか
そして
そのあと
膝枕をする
はあ!?
胸は追いつけ
ないんだから
太ももくらい
使わせてくれ!
すこしでも
ハードで埋める
なんの話だ
慰安?
旅行?
なんだ それは?
古代から
伝えられる
メイドへの
報奨です

慰安旅行というのは
普段 家事に追われているメイドに対する最高の報酬であり
古来 さまざまな文献において絶賛されている休暇のあり方です
神代のギルドには専用の役人や部署まであったとか

普段は忙殺されているメイドを解放
日頃の疲れを洗い流し
メイドは新たなる段階へとステップアップできるのです

つまり休日か
なるほど言われてみればもっともだ
メイド姉妹も休みたし

よし 許可する
この件に関してはメイド長に一任する！
ありがとうございます

いやぁ
休暇旅行なんて
ひさびさだな
…温泉は
ごきげん
おんせんって
なーに？
あの…
本当に私も行って
いいんでしょうか
温泉は
地中から湯が
湧き出す
現象やその場所
または
入浴施設
？
？
？
もちろんです
貴女たちは
立派に役目を
果たしたのですから
でも…
二人とも
こちらに
来なさい

…よくやりましたね
ありがとう！
…ありがとうございます
では 勇者様 移動をお願いしてよろしいですか？
おう
この座標に…
ヒソヒソ
え でもそこじゃ…
いいんです
？
ヒュ～
ふ…
!?
皆様 ようこそいらっしゃいました
ゴゴゴゴゴゴ

こちらが
高級古城民宿…
「まおー荘」で
ございます
まおー荘
おいでませ

魔王城じゃ
ねーか!!
終 第三十四話
私はこの世界が好きなんだ

第二十三回

ロビイストの活動

政府などの機関に対し非公式に働きかけるロビイスト。日本では馴染みが薄いがその影響力はあなどれない。

中央社会で、さまざまな要人に対して働きかけている貴族子弟。これが「ロビー活動」だ。

ロビー活動とロビイスト

世の中には「ロビー活動」と呼ばれるものがある。個人や団体が、主張や思惑を政策に反映させることを目的に行なう私的な政治活動のことを指す言葉で、具体的には政治家や政府機関の構成員などに対し、陳情や献金、圧力といった手段を用いて行なわれる交渉のことをいう。そして、こういった活動を実際に行なう人々が「ロビイスト」なのである。

ロビイストは企業や利益団体に雇われていることが多く、雇い主の利益を実現すべく活動する。政治家ではないため制約が少なく、民間の利益の代弁者として有用だ。しかし、政治献金がらみで政治腐敗に繋がりやすく、特定の後援者の声ばかり反映されることになるという欠点もあるため、法律で制限している国もある。

現代日本では、ロビー活動に対して官民癒着というイメージが強いようで、一般にはあまり馴染みがなかった。しかし、最近ではロビー活動を専門とする会社なども出てきており、徐々に広まってきている状況にある。

外交の場ではカギを握ることも

ロビー活動は、民間と自国の政府の間に限ったものではなく、国際関係の場でも行われている。外国に駐留している外交官が、自国の利益を図るために行なうケースなどはそのよい例だ。

本作でいえば、貴族子弟の活動がロビー活動にあたる。彼は、各国の宮廷をまわりつつ要人と接触し、得た情報を三国同盟側に流すかたわら、中央の情勢に不満をもつ人々に対して、三国同盟の良い点をさりげなくアピールしている。

現時点では、南部の三国同盟に比べて中央の勢力が優勢なのは明らかだ。そんな状況下で同盟への参加を呼びかけても、拒否されて終わるばかりか、警戒さえされかねない。しかし、同盟側の利点をささやくだけなら話は別で、中央から徐々に引きはがしていくことも可能だろう。また、その国が最終的に中立の姿勢を打ち出すだけでも、敵国の勢力が減る分だけ三国同盟に有益となる。地味ではあるが、これも立派な外交の手段。ロビー活動もまた、戦いのひとつなのだ。

中央でロビー活動をしている貴族子弟は、得た情報を氷の女王に報告するかたわら、さりげなく味方を増やす努力をしている。

フラグ

くりるたい？
なんだい
そりゃあ
魔王様が…
魔族の族長を集めて
会議をします
魔族もいっぱい
集まります
祭りみたいな
もんか
はい
何十年かに一度の
魔界の催しです
嬢ちゃんも
参加するのか？
私は どこの氏族にも
属していない
混血ですから…
魔界の
お祭りですか
商人としては
気になりますか
なんでも
今の魔王は
美人の女魔族
なんだと
ははは
そりゃ
気になりますな
まぁ
俺たちが魔王に
会う機会なんざ
ないだろうけどな
ははは…

第二十五話

ギャキ…
ッ…
私としたことが…
自ら死地に飛び込んでしまうとはッ

私が突破のための尖錐騎行をするッ！
勇者は中衛でみんなの護衛を
魔法使いは後方警戒と火力支援を――

落ち着け
なにをするッ!?
俺たちは魔王と一緒なんだぞ！
ヤバいわけないだろ！
あ

そういえば…
ここにいるのって
勇者のお兄ちゃん
以外はみんな
女の人だよね
ピ
え…
えーと…
たまたま…
偶然ですよ？
ほら
執事の爺さんには
事情をいろいろ
話してないし
王様や子弟たちは
国の仕事が忙しい
時期だしさ
そういえば
男性は勇者様
ひとりですね～
以前から
勇者の
知り合いは
どうも女性が
多すぎるのでは
ないかと感じて
いたんだが
いつも どこからか
ピンチの女性を
見つけては
助けていたな…
…ハーレム
ルート？

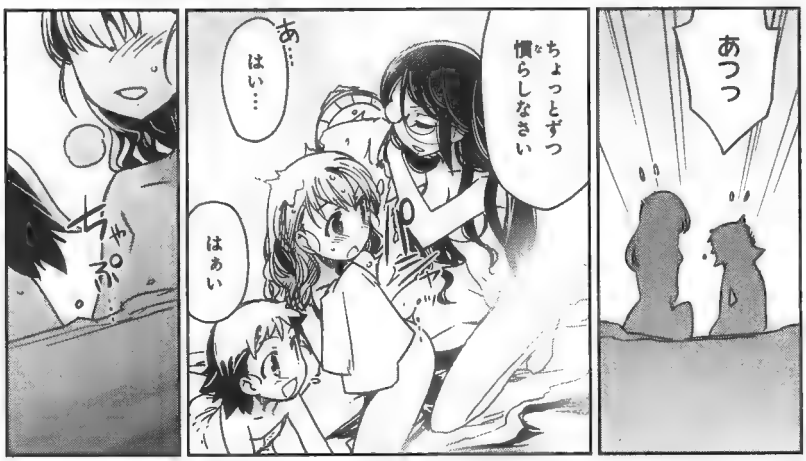
第二十五話 Archenemy and Hero 25th chapter

時が求めるから

はー…
熱くて心地いいな
かぽ
私もずいぶん久しぶりだ

この広い池がみんなお風呂なんですか!?
そうだ
お風呂に滝がありますよ!?
ドドドドド
お風呂なのに天井がないよう!?
ヒョウウウウ
こんなにたくさんのお湯を沸かすのにどれだけの薪がいるんでしょう…
屋敷の近くの森がなくなっちゃう…?
そうか
二人は薪で沸かすお湯しか知らないのか
ここは温泉といってな
地面から温かい湯が自然に湧き出ている場所なのだ

説明はさておき…
ともあれ
入ってみるといい
は…
はい
ちゃぷ


あつつ
ちょっとずつ
慣らしなさい
あ…
はい…
はぁい
ちゃぷ…

温かいです…
きもちいいー！
魔法使い殿
同じ一族ではあるが入れ違いになりあまり話もできなかったな
いろいろと頼んでしまい苦労をかけた
…別にいい

魔界の勇者
ん？
人界の魔王は好ましい？
勇者のことは…
うん大事な人だ
…勇者はなぜ王にならなかったんだろう？
魔界に勇者がやって来る時
それは私の予想ではまだ五年は先だったけれど
その時はきっと地上の王としてやって来ると思っていた
…ばかだから

勇者が人間の
地上の世界を
統べる王となり
地下世界に
攻め込む
私は魔族の希望を
一身に背負った
ひとりの勇者として
地上世界にいる
勇者を目指して
討伐の旅に出る

…そんな物語も
あったのかな
きっと
…その旅に
貴女はいない

そうだろうな
私は戦闘は
からきしだ
…？
…
なにか
私に気になる
ことでも？

…でかい
!?
ぼしゃあっ
いきなり何を言い出すのだ
そんなに見ないでくれ
こんな駄肉なんて…
ぼしゃあ…

いーえ
この際ですから
まおー様は ご自分の武器を
自覚なさるべきですわ
…こっちは美乳
そんな飛び道具は
卑怯だ！
ガインコゴ
勝負しろ！
…ちっぱい
ちっぱい
言うな！
私は この胸に
そこまで自信が
もてないのだ
たゆたゆして
落ち着かないし
形だって ちょっと
もったりしている
というか…
重力に魂を
引かれるのが
そんなに自慢か！
だいいち コレを
駄肉と呼んでいたのは
メイド長ではないか
ええ
その通りです

使いこなせないまま
持ち腐れていては
どんな宝も意味が
ありません
自覚し 活用することで
はじめて価値が生まれ…
その駄肉は
駄肉でなくなるのです!
おお…
ビ
ミ
…大丈夫
そういう趣味の
人もいる
半笑いで
言うなッ!!
プス
ギャー
ギャー
おムネの
はなし?
楽しそう
私たちは
年齢なりだから
向こうで髪の毛
洗おうね

議論を重ねて争っても
審判たる勇者様がいませんと話にオチがつきませんね
はぁ
はぁ…
…それもそうだな
こうなっては決着は次の勝負に持ち越しでしょうか
宴席を用意しております
まお様ご一行
さいしょはぐー
じゃんけんほい!!

フフフ…
く…
トプ…
トプ…
くぅ…
ゾ…
ゆ～
ゆ～
足に来ているようだな
早く負けを認めたらどうだ
…人のことは言えない
それにしても勇者は遅いな…
きっと恥ずかしくて出てくるに出てこられないんだ
友達がいないから

…来た
ヒュン
待たせたな！
ばん
おかえりー
おかえりなさいませー
ただいまー
……
……
お二人ですね？
すぐ食事とお酒を用意させますわ
あはは！見たか！俺にだってともだちのひとりやふたり…
いったいどこにどんな友達を探しに行ってたんだ……？

ここはいったい…？
魔王城だけど？
黒騎士が珍しく酒をオゴるっていうからきてみればキョロキョロ
来たコトなかったけて
なにイイイ
何がどうなってるんだよ!?
どういう集まりなんです？
家族旅行みたいなものだよ
ゲゲー声
お客様まずは一献どうぞ
あ
これは ご丁寧に
…おい黒騎士
魔王の側近ってのはフカシじゃなかったんだな
あんな美人さんのメイドがいるとかうらやましいぜ
俺のメイドじゃないって魔王のだよ

あのクラスの美女をメイドとして使う魔王か
やっと魔界の広大さが実感できた気がするぜ
魔王か？話すか？
おーい魔王～
え？
なんだ 勇者～？
こいつが東の砦将
開門都市で自治政府のとりまとめをやってくれてる
そっちは その副官いつも世話焼いてもらってる
砦将殿！
お初にお目にかかる私が魔王だ！
おおっ
あの都市の最近の安定ぶり復興発展ぶり
すべて聞きおよんでいる確かな手腕をお持ちのようだ
まおーって
えーと
ついでに みんな紹介しとくか

こっちが湖畔修道会院長でもある女騎士
こっちは魔法使い
「出来が悪い悪夢」でわかるかな
ぶい
それって救世の勇者の一行じゃないか!?
なんでその英雄たちが魔王城で魔王と酒を飲んでいるんだ!?
どこの世界の家族旅行がこんな状況になるってんだよ!?
勇者
説明なしで連れてきたのか？
あらあらまぁまぁ
ゆ
ゆうしゃ？
俺黒騎士だけど勇者もやってるんだ
はぁぁぁ!?

——飲まれているか？
ありがたくいただいてますさ
砦将殿のことは勇者からいろいろ聞いている
一度は会いたいと思っていたのだ
こちらこそお会いできて光栄ですな
救世の勇者一行の勇名は遠征軍で知らぬ者はいませんや
開門都市とかいう街の様子はどうなんだ？
近頃ではずいぶん人も増えましたよ

遠征軍がいた頃に
逃げ出した魔族も
ぼちぼち戻って
きています

新しい魔族も
人間の商人もね

人間の？

ゲートは破壊
されて 大空洞に
なったのだろう？

商人ってやつは
たくましい

許可があろうが
なかろうが

商売のチャンス
さえあれば
やってきますよ

もちろん
見つかりゃあ
密貿易ってことに
なるんでしょうがね

密貿易も
辞さないのか

やるなぁ…

…それに
してもね

そうかぁ
勇者だったん
ですかい

ん？

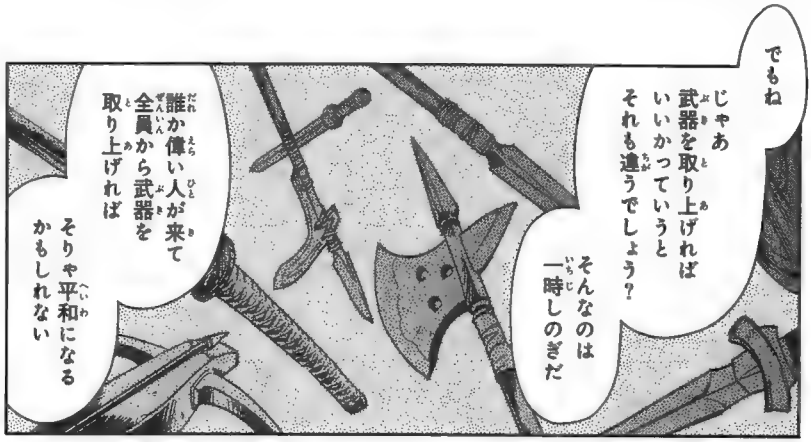
いやいや
あの黒騎士ってのは
酒を飲むたんびに
なんで こんなに
いい加減なやつが
あんなに強いのか…
とも思ってましたが
中身が勇者
だったんなら
納得だ
ってことは
勇者たちは
やっぱり
魔族とは？
やり合いたくない
ということだ
そうでしょうなぁ
黒騎士は ずいぶん
そのことだけは
口を酸っぱくして
言っておられた
「魔族が嫌いな人間は
俺のところへ来い
代わりに俺が
殴られてやる
人間が憎い魔族は
俺のところへ来い
代わりに俺が
憎まれてやる」ってね
…そうか

地上世界も
ぐちゃぐちゃなのだ
魔族を許さないと
燃え上がる中央は
三か国同盟と
対立を続けている

平和に暮らしたい
はずなのに
誰もが手に剣を
持っている時代だ

そいつぁ
仕方ありませんやね
あんな物騒な街に
住んでいるから
そう思うのかも
しれませんがね
剣を持たないのは
ただのバカですよ

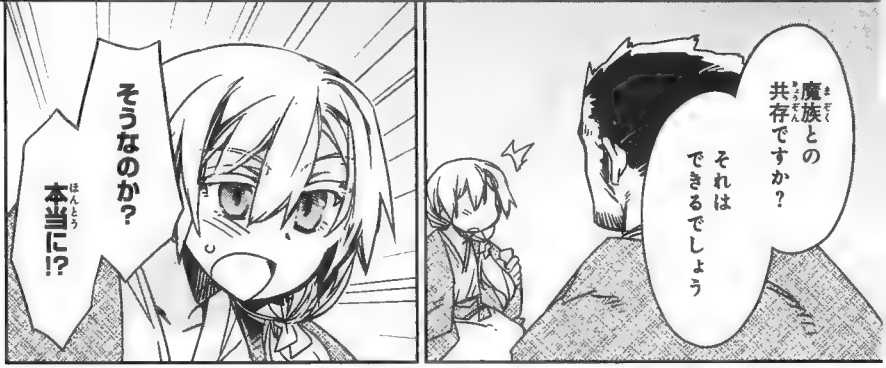
目の前の相手が
どんな思惑を
もっているか
わからないのに
無防備な脇腹を
さらすなんてのは
善良なんじゃなくて
ただ頭が温かいだけだ
——そうだな


でもね
じゃあ武器を取り上げればいいかっていうとそれも違うでしょう？
そんなのは一時しのぎだ
誰か偉い人が来て全員から武器を取り上げればそりゃ平和になるかもしれない

だけどそんなものはお父やお母にゴチンとやられてケンカを止める子どもみたいなもんでしょう？
そんなのが本当に平和っていうんですかね？
武器を持ったままでも握手をできるから平和っていうんじゃないですかね

いや差し出がましいことを言っちまいましたね

できると思うか？


魔族との共存ですか？
それはできるでしょう
そうなのか？本当に!?

そんなことは自明ですよ
もう穴っぽこだって開いちまってる
今はまだ細い流れだけど
この流れが途絶えることはもうないですよ
共存しなきゃ滅ぼし合いだ
共存するっきゃないでしょう

そんなものは開門都市を見ればすぐわかります
ええ共存できますよ
…問題は損害許容限界
そうですな
え？

いずれ共存はできますよ
それは保証できる
問題はそれまでにどれだけの血が流れるかってことです
共存はいずれ実現しますが
その共存は五年後か十年後か百年後か…
そこまではわからない
それまでに流れる血は年月に比例して大きくなるでしょう
もしかしたら人間か魔族か
どちらかの血をすべて流し尽くすほどの犠牲が必要かもしれない

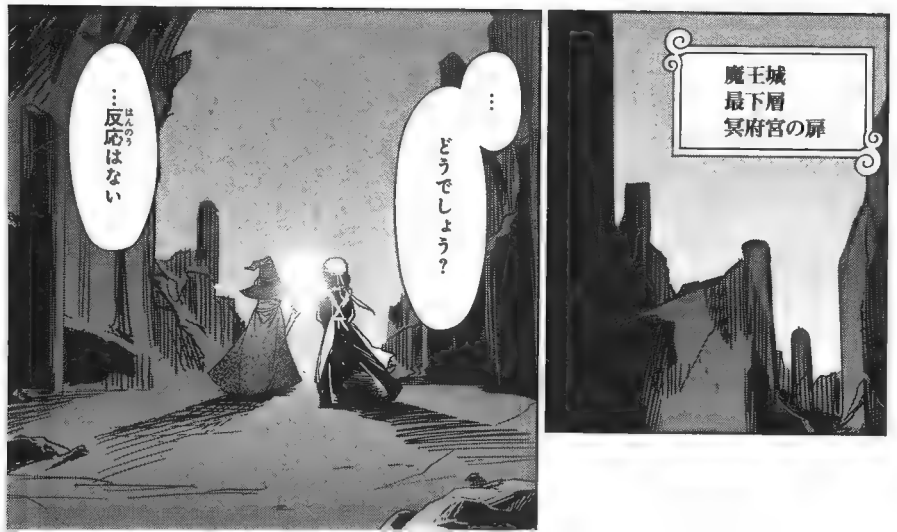
共存がなる
その時まで
人間や魔族が
「保つ」かどうかは
別問題ってことです
明日は来るけれど
今日流れる血の量は
わからない
時が求める
から…
求める声が
聞こえるから
私は
この部屋だ
私も
この部屋だ
俺も…

また このパターンか
メイド長め…
二人で寝てくれ
俺はどこでも寝れるし
ギュッ
ちょうとまて
んじゃ
がし
今晩は三人で寝る
酒もまわってるし
夜も遅い
一度あったことだ
二度目は問題ない
教会の正義からすれば 問題はあるのだが
今回はお許し願おう
精霊様が細かく諭してくれた分野でもないことだし
…また
二つなるのね…

ふかふかだー♪
ずかにねむ
ひぃ
出たっ

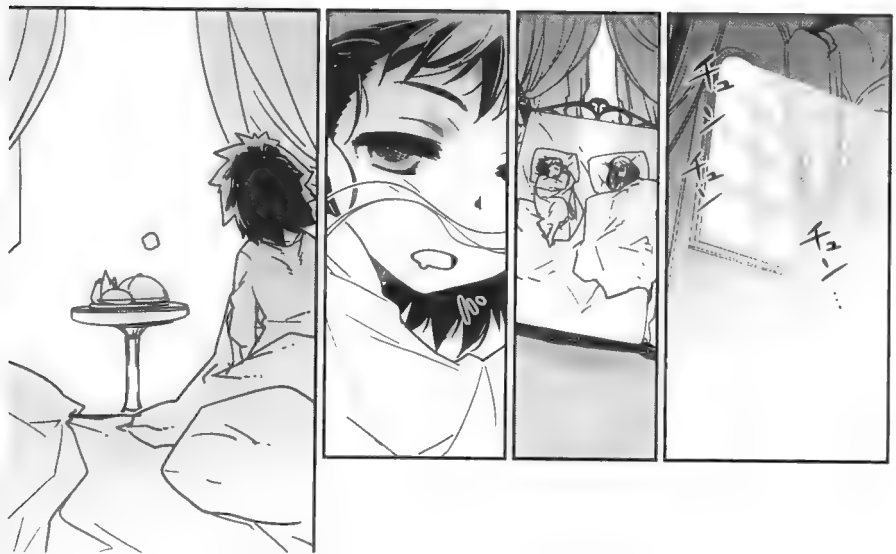
あたたかくて気持ちいいな
あいかわらずもふもふだなぁ

たぶん幸せなんだけどさ…
そうしないと有利子負債が膨らむばかりだぞ
それについては早めに結論を出すべきだな


魔王城
最下層
冥府宮の扉
…
どうでしょう？
…反応はない

消失しましたか？
…わからない
この扉を破ったのは勇者？
そうです
…残留思念の止揚結界も破壊されている
おそらくもう継承は行えない
…もしくは
もしくは？
…世界すべてで無秩序に継承が行われる

では
魔王の霊は？
世界に
放たれた


チュン…
チュン…
チュン…

わぁ！
朝ご飯がある！

どうしよう？
作ってないのに
朝ご飯があるよ

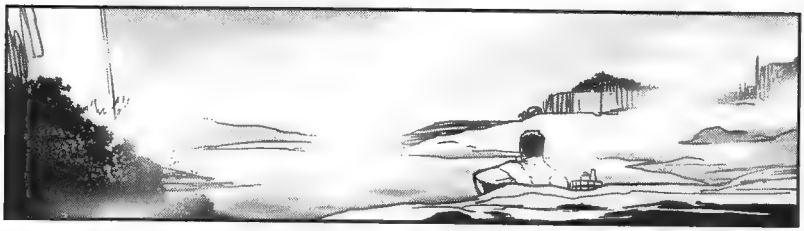
お姉ちゃん
朝ご飯だよぅ
どうすればいい？
がく
がく

ドキ
ドキ

黒いパンと
白いパンと
ベーコンエッグと
黄色い果物と
これは…
馬鈴薯の
ポタージュだぁ♪

ん…
お姉ちゃん
起きた？

ご飯だよ！
ご飯できてたよ！
すごいね
食べていい？
二人で顔を洗ってからね
チュン
チュン
チュン



おう
おっす
おはよう

よし
いこうぜ
トク
トク
うっす
では一献

朝っぱらから
飲んでるのか？
朝っぱらから
だから
うまいんだろう
一理あるな

へ？
どれが本妻
なんだよ

ん？
で
どうなんだ？

…本妻争奪戦勃発
実録極道物語？
ぷん
七ゃ

…興味津々
ぽあ

い
いや
別に…
本妻とやそういうのじゃ…
隠すなって

なんで…!?
…ここは混浴
だからってなあ
だいじょうぶ
ぱしゃ
…迷彩魔法で問題なし
…最先端の薄いぼかし
なぜか余計いやらしく感じるぞ!?
ぱしゃ
ぱしゃ
うーん…
何か悩み事か？
忽郷塔ってわかるか？
ああ
氏族会議みたいなやつだろ

できれば
その族長会議で
人間との共存の道を
探りたいんだけれど

どうなるか
わからないん
だよなぁ

今度の忽鄰塔じゃ
無理だろう？

逆に人間世界への
遠征の規模を
決めるもんだって
もっぱらの噂だぜ

魔王はそんなこと
望んでないぞ！

そいつは昨日
話を聞いたから
わかるけどな

「今度はどこまで
攻め込む」
なんて話が
ある時点で

意識がそっちに
向かっちまってるって
ことじゃないか

みんなが戦争を
望んでいるとは
思わねぇが

噂がこう
流れてるってことは
戦争したがっている
誰かさんにとっては
好都合なんだ

その上
八大氏族だ

この八大氏族のうち人間との和平…

というか共存を望んでいるのは妖精族だけっぽいんだへ？

だって開門都市にはいろんな氏族の人たちがいるじゃないか

火竜公女だって人間に好意的だぞ？

そりゃ個人単位ならいろんなやつはたくさんいるだろうけどさ

それに時勢ってやつもある

もし共存と決まればそりゃ共存するしかないだろう？

開門都市では少なくとも当面は共存と決まった

だとすればその中でどう生きるかって話だよ

でも
どうにかしなきゃ…
ニュ
ニュ
…「典範」
テンパンってのを
探せばいいのか？
……
探し物ってのは
苦手なんだよな
ふはは
お互いな
まあ
いいさ
そいつは
俺の副官にでも
いいつけておく

悪いな
いいってことよ
戦争は避けられないかもしれないが
そうやって努力しておけば無駄にはならないさ
じゅうううう
これはうまいな
これ牛さんなの？
ふむこんな味だとはなぁ
俺は気に入ったな
これ串焼きにしたらうまいんじゃねぇのか？
塩かけて…

しかし
魔界は地上と比べれば豊かだよな
そうですね～
魔界？
…あ
いっちゃダメだったのか？
私に任せろ
まだ内緒にしてたんだよ
うまくごまかしてくれ
魔界ってあの魔界ですか？
そうだ
まんま認めた!?
ここは魔界で一番の高級リゾートでな
当主様が!?
あちらにいる君たちの主人はこのリゾートの持ち主でもある
当主様はどこかの貴族だと思っていましたが
こんな領地をお持ちとは
妙な素直になってきたような…

あの説明で納得いくのか…？
ヒソ
ヒソ
ヒソ…
いや まさか…
どうだろう…
では魔界の貴族様なんですね？
有り体にいえば王族なのだ

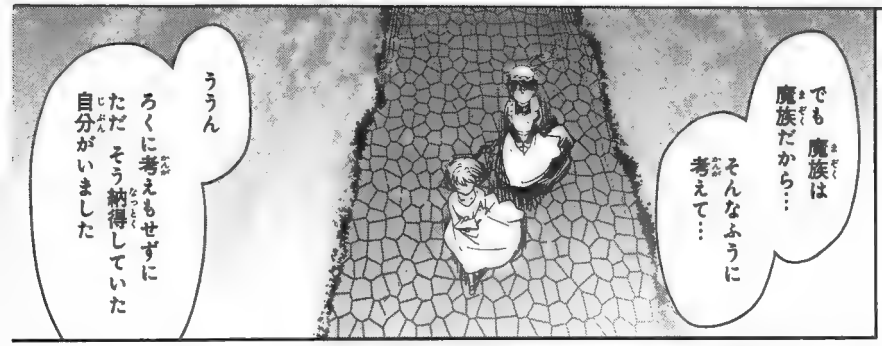
以前から まおー様とか 呼ばれていたのは そういうわけ だったんですね
不思議には 思ってたんです
お姉ちゃん どうゆうこと？
えーっと
うーん…

当主様は魔界に おいしい料理が たくさん出てくるお城を 持ってるんだって
で 地元には 今のお屋敷とは 別の領地もお持ち なんですって
おいしい料理!?
当主様 すごおい!!
食いつくとこ そこなんだ!?

おいしい料理が重要だよ
これはこれで逸材だなちびの嬢ちゃん
魔族ってあたりはなんのショックもないんだなぁ
良い風ですね
あ
はい…

やっぱり
ショックでしたか
騙していたことに
なるのでしょうね
――それは
違います
ちょっと
びっくりでしたけど
…妹は本当に
けろっとして
いましたけどね
あの娘は
本当に強いから

たとえ当主様が魔族でも
メイド長様や勇者様が魔族でも
私たちが救われたという事実には変わりありません
あの時の一晩の温かさと食事は私たちを死から救ってくれましたけれど
それだけではないもっと大事なものも救ってもらったんです
でも
それとは別にやっぱりショックです
私は今まで戦争というものについてはよく知らなくて
ただ ひたすらに恐ろしかった
戦争は恐ろしくて狂っていて絶対にしてはいけないこと…
そう思っていました


でも 魔族は
魔族だから…
そんなふうに
考えて…
ううん
ろくに考えもせずに
ただ そう納得していた
自分がいました

「戦争なんて
絶対にしては
いけない」って
考えている
自分がいるのに
「魔族との戦争は
戦争じゃない」
…そう考えてる
自分もいたんです

そんな私が
いるだなんて…
ショックなのは
そのことにです
魔族は
悪だからって
信じていた
すこし考えれば
そんなふうに簡単に
割り切れるわけないって
すぐわかるのに
魔族が善とは
限りませんよ

でも
悪ではない
私は当主様も
メイド長様も
知っていますから
そんなことは
わかります
当主様に
尋ねたことが
あるんです
「戦争って
何ですか？」って
別々の存在が
出会った時…
そこで起こる
ことの一部分が
争いだと
仲良くなることも
争うことも
…戦争することも
本質的には
同じことなのだと…
そう…
おっしゃいました
とても
哀しそうに
戦争では
たくさんの
人が死ぬ
そんな悲惨も
出会いの一部で
知り合うための
過程の一形態
なのだと…

あの時の私は
少しもわかり
ませんでした
精霊様を…
ちょっぴり
ですけど
恨んだことも
ありました
こんな苦しいものが
「出会い」なんかで
あるはずがない
傲慢にも
そう思って
いました
当主様が
何を思って
「出会い」って
おっしゃったのか
少しもわからずに
今でも
正直にいえば
わかってはいません
どのような気持ちで
あんな表情を
されたのか
でも
わからなくては
ならない と
思うんです
…私自身の
ために

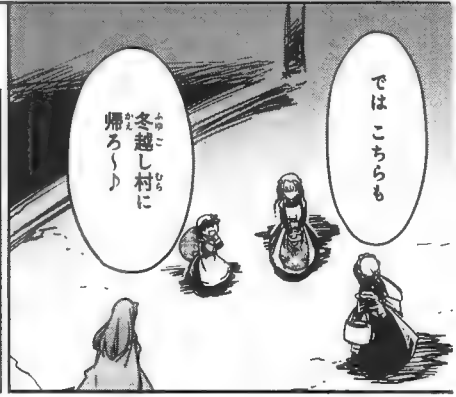
…強くなりましたね
そんなことはありません
…貴女も妹も
コホ
私の自慢の弟子です
あ……
ァァァァ
入りましょう身体が冷えますよ
はい…

世界は広大で
果てがない
そこには無数の
魂持つ者がいて
残酷で汚らしく
醜く歪んだ
でも 温かく
穏やかで美しい
ありとあらゆる
関係と存在を
つくっています
この世界は
それらすべてを
抱えて
広い
——でも
貴女には すでに
翼がついています
だから いつかそれを見て
理解できると思います
諦めなければ
きっと

はい
――先生

まお一荘
よーっし
荷物も
まとまったぞ
私たちも
まとまりました
お土産
いっぱーい♪
たいしたものは
持ってきません
でしたしね

移動時間がないというのは本当に便利だな
ほらいちおう奥義呪文だしな
いやー
誰にも信用されないだろうな
魔王城で温泉に入ってきたとか言ったって
まぁいいじゃないですか
勇者は皆将殿を先にお送りしてくれ
待ってるから
いい
私がする
おいいのか？
開門魔術の場所わかるのか？
じゃあ魔法使い殿と行くかぁ
よろしくお願いします
…ごきげん


では こちらも
冬越し村に帰ろ～♪

勇者頼むぞ
おー

これ以上温泉につかっていると
いろんなことを投げ出してしまいそうだからな
……

うぅん…
帰れば山ほど仕事が待っているさ

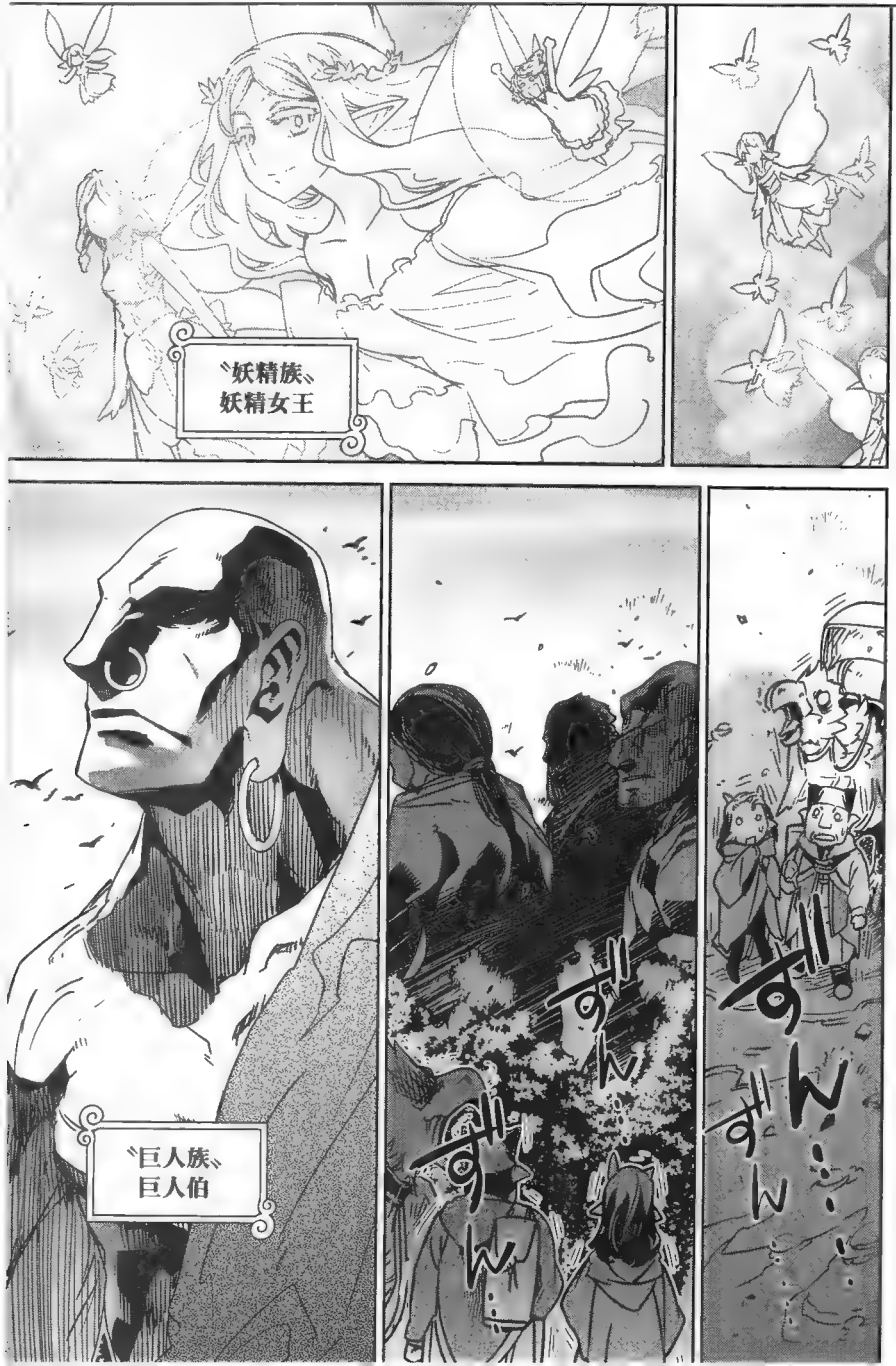
また すぐ来ることになります
そうだな
月が明ければすぐにでも忽郷塔だ

情報を集めて交換条件に使えそうなカードの準備をすすめないとな
それから冬寂王や中央の様子も心配だ

各氏族や
長たちも
忽鄰塔に
向かい始めた
ころだろう
我々も
急がねばな

〝人魔族〟
紋様の長

くりるたい
クリルタイ
くりるたい
くりるたい


〝妖精族〟
妖精女王
〝巨人族〟
巨人伯
ずん
ずん
ずん
ずん

占術に不穏の影が映ったと…？
いったいなにが…
そこまではわからぬだが…

…この忽鄰塔
平穏には終わるまい…
〝鬼呼族〟
鬼呼の姫巫女

ドドドド

此度の忽鄰塔…
何を決めるものでしょうな
フン…
惰弱な魔王が何を言おうと従う謂れはないわ
〝獣牙族〟銀虎公
〝機怪族〟碧鋼大将

ゴゴゴ
ズシン
ズシン
ガラガラ…
オオオオオオ
〝竜族〟
火竜大公
我らが何をすべきか…
わかっておろうな？

〝蒼魔族〟
蒼魔王
王子は
どうしておる？
紋章官に
確認をしている
頃かと
蒼魔領
蒼魔宮殿
よいのですか？
王の命では…
いいんだよ
確かめるまでも
ないだろう

父上も心配性が過ぎる
この刻印が何を意味するか…
魔族なら誰もが知るだろうにな
終 第二十五話 時が求めるもの

第二十四回

人々を癒す温泉

日本には全国に数多くあり浴場としてお馴染みの温泉。利用法は異なるものの昔から世界中で親しまれていた。

裸でお湯につかるのは日本だけだと思われがちだが、実はヨーロッパ各地にも存在している。

温泉は法律で条件が定められている

温泉といえば、日本各地に存在する、我々にはとても馴染み深いもの。一般的には地中から湧き出ているお湯というイメージかもしれないが、実は「温泉法」という法律が定められている。

温泉法とは、温泉を保護するとともに、採掘する際に発生する天然ガスによる事故を防止する目的で制定されたもの。掘削や温泉を採取・利用する許可、成分表示の規定などが定められており、この条件に合致したものだけを温泉と呼ぶことができる。こうした法律は日本だけにみられるものではなく、ドイツや台湾など諸外国でも独自の法律が定められている。ただし、海外では療養のために温泉のお湯を飲むのが主流で、日本のようにお湯につかって疲労をとる使われ方はごく限られた地域にしかみられない。海外では、お湯に入るという利用方法は、温水プールのような娯楽施設として使われるケースがほとんどで、あとは蒸気を使った蒸し風呂がメインとなっている。

世界中で古くから親しまれていた温泉

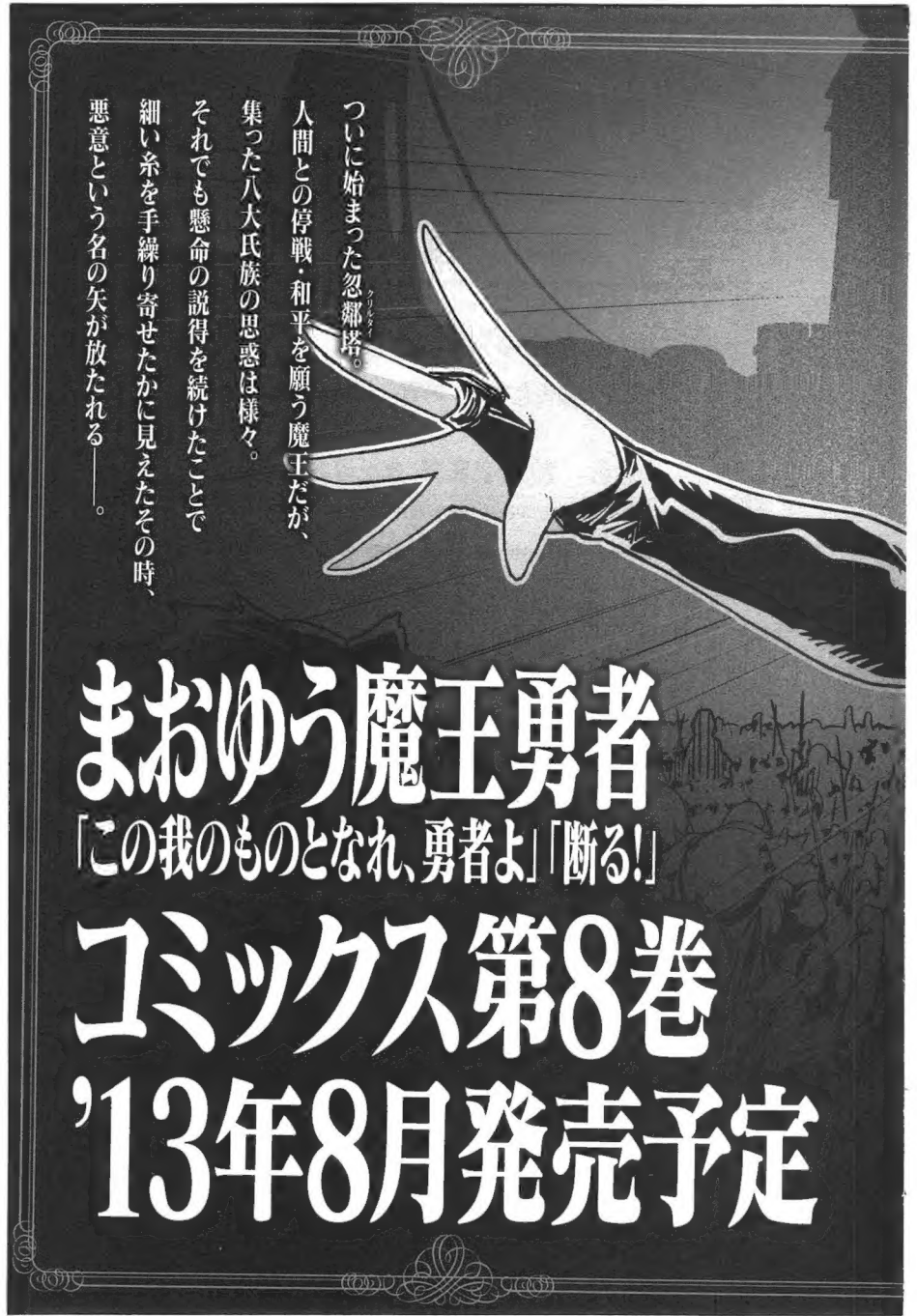
温泉には、火山の地下にあるマグマを熱源とする「火山性温泉」と、それ以外を熱源とする「非火山性温泉」がある。火山が多い日本には前者が多く、8世紀頃に記された「日本書紀」にも温泉を利用していた記録が残されている。

日本で温泉の医療効果が注目され始めたのは、鎌倉時代の頃といわれる。当時は天皇や有力な武士など一部の権力者だけだったが、江戸時代に街道が整備されたことで一般の人々も温泉を利用するようになり、今日のようなスタイルが確立された。

一方、ヨーロッパではギリシャ人が入浴を好んだことが知られており、ローマ帝国でも都市部には共同浴場が設けられていた。のちに、伝染病や宗教上の理由などから入浴の習慣は廃れていったが、それに代わって医療効果もある温泉水を飲むという行為が定着。有名なベルギーのスパのように入浴用の温泉も残ってはいるが、療養用に限られている。

このように、温泉の利用法は地域で異なっているが、人々にとって古くから身近な存在だったという点は、世界共通といえるだろう。

入浴しながらの飲酒は、風情はあるが、血の巡りがよくなりすぎて酩酊しやすいので注意。



ついに始まった忽鄰塔（クリルタイ）。
人間との停戦・和平を願う魔王だが、
集った八大氏族の思惑は様々。
それでも懸命の説得を続けたことで
細い糸を手繰り寄せたかに見えたその時、
悪意という名の矢が放たれる――。

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」

コミックス第8巻

'13年8月発売予定

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」⑦

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ　キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

2013年5月25日初版発行

発行者
井上伸一郎

発行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8719(編集)
発売　株式会社角川グループホールディングス
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)
http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン
沼利光(D式Graphics)

印刷 共同印刷株式会社　製本 共同印刷株式会社

初出／『月刊コンプエース』'13年4月号～6月号

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2013 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2013
©2011 Touno Mamare／PUBLISHED BY ENTERBRAIN,INC.
ISBN978-4-04-120697-3 C0979

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

Archenemy and Hero

第七巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案
水玉螢之丞・toi8

コラムページ
竹之内大輔(レッカ社)
野村昌隆